ジオの力（ちから）

- 地形や地質は場所ごとに異なる（地多様性：ジオダイバーシティ）
- 生物多様性（バイオダイバーシティ）の母はジオダイバーシティ
  - コウノトリを守るにはコウノトリが好きな場所（=ジオ）が必要
- ジオの情報が「その場所だけの物語」を生み出す
- 「その場所だけの物語」が価値を生みだす

ジオツーリズムとジオパーク

- ジオを楽しむ旅がジオツーリズム
  - ジオが作り出す美しい景観を楽しむ
  - 地域の自然史、ジオ・バイオダイバーシティと、地域の伝統・歴史・文化を学ぶ
  - 地球というシステムを理解する
  - 持続可能な観光を目指す
- ジオパークは地質遺産を主な見所とする自然公園の一種　ジオツーリズムの目的地
  - 保全、研究・教育・普及、ジオツーリズムによる地域振興が三本柱

ジオパークの活動

- 自然観察路，説明看板、ビジターセンター
- 情報提供：パンフレットや書籍
- ガイド付きツアー
- 旅行会社と協力してジオツーリズムを推進
- 地元の特産品，地場産業を応援する

一番大事なのは物語とそれを語る人

- ジオはそのままでは何も語らない
- 地元の人が地元のことを一番よく知っている

ジオパークは場所に加えて**人と活動**

世界ジオパークネットワーク(GGN)

- 現在17ヶ国53箇所（ヨーロッパ・中国中心）
- GGNとしてはジオパークがある国をもっと増やしたい

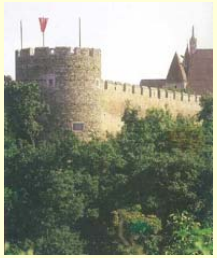
世界ジオパークネットワーク設立の経緯

- 1990年代にヨーロッパでジオパークがはじまる
- 1997年にUNESCO Geopark Programmeとして提唱，正式なプログラムとはならなかった
- 2000年にヨーロッパジオパークネットワーク設立
- ユネスコ執行委員会（2001年6月）決定により、ジオパークを推進する各国の努力を支援
- 2004年にユネスコの支援により世界ジオパークネットワークを設立
- 世界遺産，MAB，ラムサール条約登録湿地のよう正式な多国間のプログラムではない

ヨーロッパのジオパークの例

オーストリアのKamptal Geopark

博物館がジオパークの情報センター．中世の町並みとともに，ジオパークを観光資源として活用している．



中国のジオパーク

GGN加盟ジオパーク18カ所をあわせて135箇所の国立ジオパークがある

中国の雲台山地質公園

入口で入場料を払って見学する.

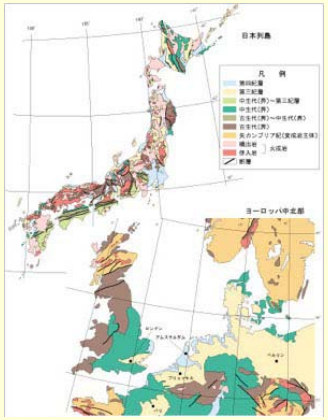
観光客は2004年には1999年比で17倍に増えるなど，焦作現象と呼ばれる大成功を収めている.

マレーシアランカウイ島ジオパーク

- 昨年6月にGGN加盟
- ランカウイ島全体がジオパーク
- 未完成（設備、ガイド、ツアー）

さて、日本のジオパークは？

- 日本列島の地質はヨーロッパよりはるかに複雑
- 地形も起伏に富んでいる
- つまり、ジオパーク候補地は多い
- 火山、活断層など、地球のダイナミックな活動を実感できる場所がある



全地連websiteより

これまでの経緯

2004年夏　NPO法人地質情報活用・整備機構(GUPI)が情報収集を始める

2004年9月　地質学会でジオパークに関する最初の集会

2005年地質学会ジオパーク設立推進委員会設立。広報・普及、地域への情報提供などを行う。

2005年—2006年にGUPIがGEO FORUMを3回開催。

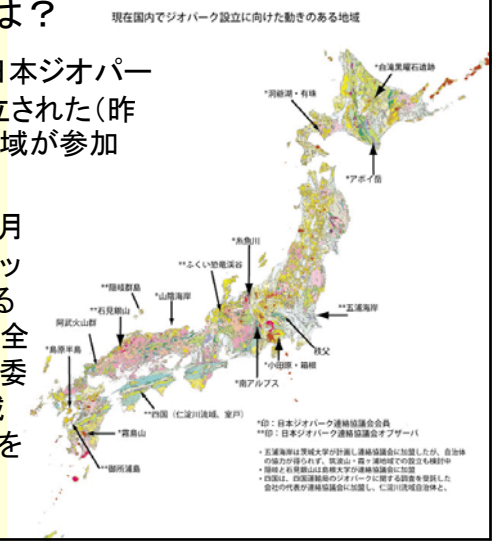
2006年9月の第2回世界ジオパーク会議にGUPIと産総研から参加。

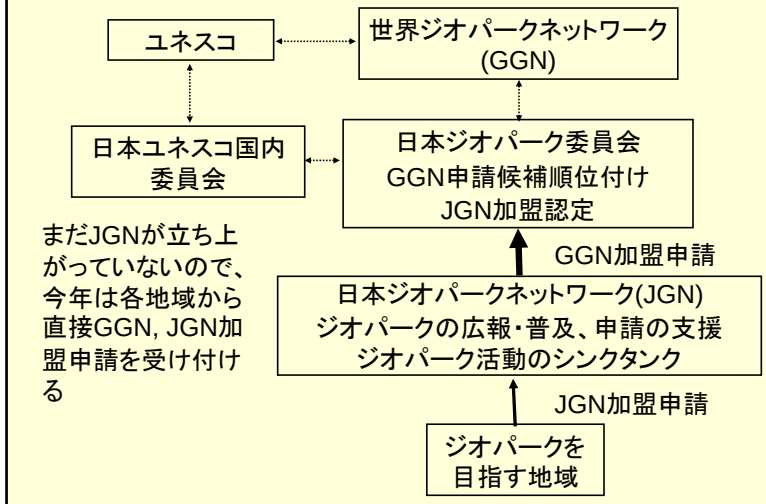
2007年には学会でシンポジウム、市民向け講演会などを実施。各地の自治体主催のフォーラムなどで委員会メンバーが講演を行う。朝日新聞、各地の地方紙に記事多数掲載。各地でジオパーク設立に向けた動きはじまる。

国内の候補地は？

13地域が集まって日本ジオパーク連絡協議会が設立された（昨年12月） 現在15地域が参加

この連絡協議会が7月に日本ジオパークネットワークに衣替えする（改名する） 最初は全地域オブザーバ、本委員会が認定した地域から日本ジオパークを名乗る



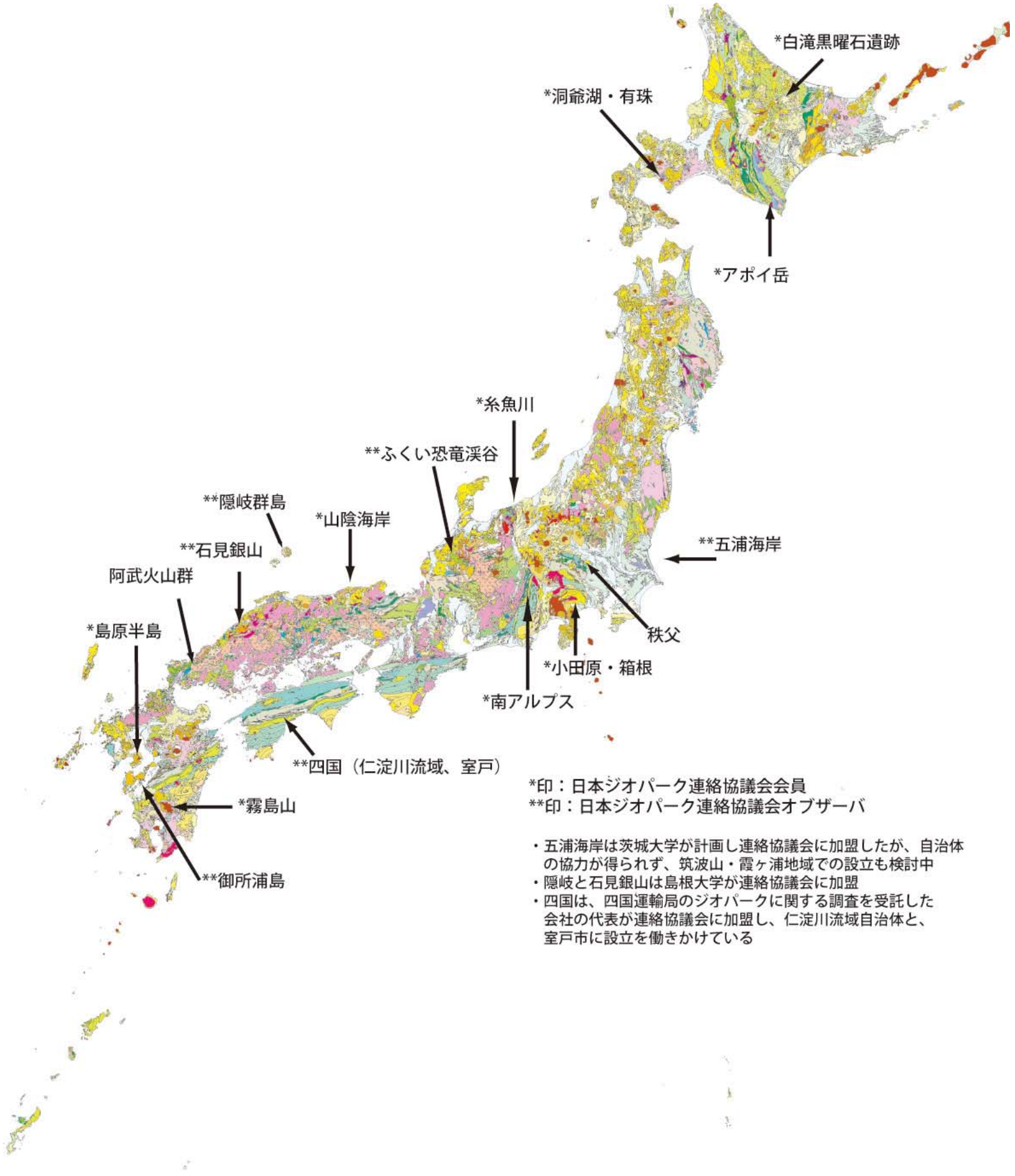


まだJGNが立ち上がっていないので、今年は各地域から直接GGN, JGN加盟申請を受け付ける

第三回国際ジオパーク会議

- 6月23-28日 ドイツオスナブルック
- 有珠・洞爺湖、糸魚川、山陰海岸、島原半島の各地域、GUPI、産総研が発表 高知の関係者が参加
- 参加地域にとっては、世界のジオパーク関係者と交流し、世界のジオパークのレベルを知る良い機会

現在国内でジオパーク設立に向けた動きのある地域



*印：日本ジオパーク連絡協議会会員
**印：日本ジオパーク連絡協議会オブザーバ

・五浦海岸は茨城大学が計画し連絡協議会に加盟したが、自治体の協力が得られず、筑波山・霞ヶ浦地域での設立も検討中
・隠岐と石見銀山は島根大学が連絡協議会に加盟
・四国は、四国運輸局のジオパークに関する調査を受託した会社の代表が連絡協議会に加盟し、仁淀川流域自治体と、室戸市に設立を働きかけている